分野	31	地域活動・市民活動	通番 49
施策	311	自治活動の促進	
5年後の目標		地域住民の間に日常的な対話が増えてつながりが生まれ、地域の課題に市民が主体的に向きあい行動している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
自治会活動支援事業	一般	2	1	8	16,579,589	自治・共助振興室

事業の概要

自治会長会において、各自治会における現状や相互に共通する懸案事項について、情報交換や交流会を継続して実施します。さらに、自治会が組織としての機能を発揮するように、運営補助と事業補助を行うとともに、自治会館等への補助制度を時代に応じたかたちに拡充し、住民自治活動を促進します。また、新たに未組織地域が発生しないよう関係機関に働きかけるとともに、自治会未組織地域の解消に向けた支援を行います。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	自治会加入率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
53.3（令和2年度）	目標	50.0以上	50.0以上	50.0以上	50.0以上	50.0以上	
	実績	52.6	50.1	47.5			

・6月の管外研修では、自治会加入率の低下に伴い、加入促進への関心が高まっていることから、活発な地域活動を行っている神戸市西区にある「井吹東ふれあいのまちづくり協議会」の取り組みについて研修を行いました。
・11月には、「市長と語る対話のわ」を開催しました。「長岡京市のこれから」として、本市の現状とまちの新陳代謝について、自治会と活発な意見交換が行われました。
・冬季研修会では、「自治会のデジタル化と加入促進」をテーマに市内の自治会での取組み事例の発表・紹介を行いました。その後、“「入ってもらえる」、「残ってもらえる」これからの自治会活動とは？”をテーマに意見交換を行いました。
・多様な自治会のあり方への支援体制や手法について、自治会と協議し、庁内で検討を進めました。

冬季研修会の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	自治会加入率	単身世帯の増加等で推計人口の世帯数は増加していますが、自治会加入率は減少しています。大規模マンションや開発地域の区域が自治会未加入となる傾向があります。	21

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・上記取組みに加え、各自治会が転入者に声掛けをされることにより、新規自治会員の加入はありますが、死亡や施設入所等の社会的減少及び自治会活動への負担感により脱会者が生じていることから、全体として加入率は減少となりました。 ・自治会役員の負担軽減や若年層の加入促進を目的に、自治会運営のデジタル化ツールの情報収集を行うとともに、自治会でのデジタル化に対するニーズや取組み状況を調査しました。 ・自治会での加入促進に対する課題や好事例を共有することができました。

課題等

・特に高齢の方が、自治会活動や役に対する負担感により脱退されるケースが多くなっています。
・自治会員の高齢化と役員の後継者不足により組織が弱体化し、維持が難しくなっている自治会も出てきています。
・新たに建設されたマンションや開発された区域が自治会未組織・未加入となるところが増えています。
・地域の特性に応じた自治会運営に対してのきめ細かい支援が求められています。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・自治会の負担軽減や新たな加入促進として、自治会の回覧や連絡等のデジタル化支援について具体的に検討し、導入に向けた取り組みを行います。 ・自治会未組織・未加入のマンションと地域がつながるための制度を検討します。 ・多様な自治会のあり方に対する支援について、協議、検討を進めます。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 50
施策	311	自治活動の促進	
5年後の目標		地域住民の間に日常的な対話が増えてつながりが生まれ、地域の課題に市民が主体的に向きあい行動している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
地域コミュニティ活性化事業	一般	2	1	18	11,389,790	自治・共助振興室

事業の概要

防災や高齢者の見守り等、地域に期待される互助・共助の意識向上を目指し、地域のコミュニティの活性化を進めます。地域コミュニティ協議会の役割を明確化し、全小学校区でのコミュニティ協議会など校区を単位とした住民連携組織の設立に向けた支援を行うとともに、地域における自主運営体制の確立に向けた支援を行います。また、地域における各種団体の存在意義や役割を明確化し、重複する事業の整理統合等を進め、地域活動団体の負担軽減や連携強化を推進します。

令和5年度の取組

D（取組）

指標		小学校区での住民連携組織の設立数				単位	校区
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
8（令和2年度）	目標	8	9	10	10	10	
	実績	8	9	9			

・地域住民の主体性を尊重しながら地域の課題や問題を解決する仕組みを模索するために、長法寺小・長三小・長四小・長五小・長六小・長七小・長八小・長九小・長十小校区において校区単位の地域コミュニティ活性化事業を実施しました。
・地域住民の自主性をより高めるため、長法寺小・長三小・長四小・長五小・長七小・長八小・長九小・長十小校区では地域コーディネーターを置かない住民主体の事務局運営を実施しました。長六小校区においては地域コーディネーターを配置し、事業や活動の調整役・行政とのパイプ役を担いました。

長六小校区設立総会

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・令和5年度の設置済み校区は9校区です。 ・長法寺小・長三小・長四小・長五小・長七小・長八小・長九小・長十小校区では地域コーディネーターを置かない住民主体の事務局運営をしています。住民自らが主体的に地域活動に関わり、地域力の向上につながりました。

課題等

・地域コミュニティ協議会未設置校区が1校区（神足小）あるため、関係団体や住民との話し合いを進めていく必要があります。
・地域内における、各種団体の存在意義や役割を明確にするため、重複する事業の整理や統合を行う必要があります。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・未設置校区の神足小校区においては、新たな組織に参加することによる負担感を払拭するとともに、自治会や他の住民連携組織との違いを明確化した上で、協議会設立に向けた働きかけを行います。 ・地域への補助金交付や委託事業について、地域のニーズや負担軽減に向けた整理・統合を行うため、協議・検討を進めます。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 51
施策	311	自治活動の促進	
5年後の目標		地域住民の間に日常的な対話が増えてつながりが生まれ、地域の課題に市民が主体的に向きあい行動している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
助け合いとつながり事業	一般	2	1	18	467,640	自治・共助振興室

事業の概要

「助け合いとつながりのまちづくり条例」に基づき、参加者が座学やワークショップ、地域活動体験等を通して、自分たちの地域を知り興味を持つことができる「多様な市民が考える場」を開催するなど、市民と地域のつながりを創出し、地域活動等の参加促進や将来的な地域の担い手育成につなげます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	「多様な市民が考える場」の参加率（各回） ※参加率は、参加メンバーとなった者が、ワークショップ等に参加した割合。				単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7
参考：「自分ごと化会議」の参加率（41%）	目標			60以上	60以上	60以上
	実績			60.7%		

・令和5年度は、無作為抽出と公募でメンバーを集め、12月～2月に全5回「考える場（まち活MTG）」を開催しました。
・第1回～第4回のまち活MTGでは会議の手法を学ぶ実践的なワークショップをおこない、自分でできる「まちのあったらいいな」を参加者がそれぞれ考え、活動チームを編成しました。第5回では事業案のチームごとのプレゼンテーションをおこないました。

考える場（まち活MTG）の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・自ら動く「まち活」のマインドを学んだまち活MTGの参加者の中から、次年度以降に活動をはじめようとする方が生まれました。 ・無作為抽出・公募メンバーらは令和5年度末で28名となり、全5回の延べ参加者数は85名でした。
課題等	・無作為抽出の手法による掘り起こしは一定効果がありましたが、持続性が難しく、この「考える場（まち活MTG）」を受けて、実際に活動をしたいと思った参加者に向けた出口を市民活動サポートセンターと準備していく必要性があります。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
2：進め方の改善の検討が必要	・まち活MTGの規模や運営の手法を見直し、さらに参加者の層がひろがり、主体性のある市民活動の担い手が生まれるような事業を現参加者とともに検討します。 ・市民活動サポートセンターと連携し、まち活MTG参加者への伴走支援や卒業後の出口の態勢を整えるため、市民活動のマッチング基盤を構築します。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 52
施策	312	市民活動の活発化と協働の促進	
5年後の目標		生活の充実につながる市民活動が活発化し、団体の活動や活動団体相互の協働がまちづくりの力になっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
市民参画協働推進事業	一般	2	1	18	1,142,158	自治・共助振興室

事業の概要

市民活動団体への財政的支援や活動拠点の提供、幅広い市民の参画の促進、情報発信や啓発などを実施します。
また、計画的に施策を進めるため、「長岡京市市民協働のまちづくり推進プラン」の進行管理を行います。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	「長岡京市市民協働のまちづくり推進プラン」の施策達成率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
70.8（令和元年度）	目標	72.0	74.0	76.0	78.0	80.0	
	実績	75.4	84.2	86.0			

・市職員の協働意識の向上のため、主に係長級の職員を対象に、満足度の高い内容となるよう工夫を行いながら研修を開催しました。
・市民参画協働懇話会を2回実施、市民協働のまちづくり推進プランの進行管理や補助金制度等ついて意見聴取しました。
・市民活動団体に市民活動応援補助金を交付し、財政的支援を行いました。また、活動発表会を市民活動サポートセンターと3月に共催し、市ホームページで活動内容の紹介も行いました。

補助金活動発表会

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	主に係長級を対象とした職員研修のアンケートの満足度は93.6%でした。 市民活動応援補助金については、「市民提案型協働事業コース」は2件、「スタートアップコース」は5件採択し、採択された市民活動団体に対して、補助金（743千円）を交付し、財政的支援を行いました。また、より公益的な事業への支援制度となるよう見直しを行いました。市民活動オフィスフロアの利用促進に向け、広報、HPの掲載及び利用者への更新案内を行い、5団体6ブースの利用がありました。

課題等	・市民活動団体の財政的自立に寄与する市民活動応援補助金制度について、活動の実態に沿った制度設計であるか、制度の周知及びPR方法について引き続き検討していく必要があります。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・市民活動応援補助金制度について実際の採択団体やそのほかの市民活動団体、懇話会委員の意見を取り入れ、より効果的な制度となるよう検討します。 ・引き続き、市民協働のまちづくり推進プランに基づいた施策を研究・実施します。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 53
施策	312	市民活動の活発化と協働の促進	
5年後の目標		生活の充実につながる市民活動が活発化し、団体の活動や活動団体相互の協働がまちづくりの力になっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
市民活動サポートセンター事業	一般	2	1	14	8,416,095	自治・共助振興室

事業の概要

市内のNPO法人などの市民活動団体の広がりや、ステップアップ、団体と地縁組織を含めた多様な主体との連携を促進するため、市民活動サポートセンターを中間的な支援機能を担う拠点として、指定管理者制度を活用し、民間のノウハウを持つ団体が、市民への紹介、団体同士及び団体と市民のネットワークづくりの支援、新規に活動をしたいと考える市民に対する相談及びアドバイスを行います。

令和5年度の取組

D（取組）

指標		市民活動・ネットワークづくりに関する延べ相談件数				単位	件
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
63（令和元年度）	目標	70	80	90	100	110	
	実績	83	83	78			

・一般社団法人市民活動ネット・チーム長岡京を市民活動サポートセンターの指定管理者として、①団体同士や団体と市民のネットワークづくりの支援 ②センターや協働を市民に知ってもらうための各種事業 ③団体や活動をしたいと考える市民に対する相談及びアドバイス ④登録団体及びスタッフのスキルアップのための研修会などを実施しました。
・ホームページ、インスタグラム、広報誌「サポセン通信」等により、市民活動サポートセンターや市民活動団体の活動を周知しました。

サポセンフェスティバル

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	市民活動サポートセンター登録団体数	一定の団体の入れ替わりはありつつも、ここ数年同数程度の推移となっている。	22

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・登録団体数（施設利用ができる団体数）は令和4年度同様の169件となりました。 ・市民活動・ネットワークに関する総相談件数は延べ78件となり、目標値を達成できませんでした。 ・令和5年度は、中間支援業務としての機能の再検討に取り組み、運営方針の刷新が行われました。 ・サポセンフェスティバルを開催し、市内活動団体のPRや交流を促進しました。

課題等

・再構築をした中間支援業務推進体制の定着・発展が必要です。
・中間支援組織として、行政、企業、NPO、支援者等をつなげる仲介的な機能の強化が必要です。
・あらゆる情報が集まり、必要な人に情報が届く広義的なマッチング基盤が必要です。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・令和6年度には、月に一度モニタリングをおこない、中間支援機能の強化や、組織内ガバナンスの向上などを確認していきます。 ・市民活動団体などの相談者と、課題を解決できるスキルを持った団体や人とをつなげることのできるマッチングシステムを構築します。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 54
施策	312	市民活動の活発化と協働の促進	
5年後の目標		生活の充実につながる市民活動が活発化し、団体の活動や活動団体相互の協働がまちづくりの力になっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
多世代交流ふれあいセンター事業	一般	2	1	19	11,206,652	多世代交流ふれあいセンター

事業の概要

地域活動・市民活動を支える拠点の一つとして、また世代を超えた市民の幅広い交流を促進し、市民活動、男女共同参画、地域福祉、健康づくり及び生涯学習に寄与する場の提供、充実を図ります。

令和5年度の取組

D（取組）

指標		多世代交流ふれあいセンター利用者数				単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
33,355（令和元年度）	目標	34,500	35,500	36,500	37,500	38,500	
	実績	26,035	33,312	33,994			

・新型コロナウイルス感染症対策として、清掃委託業務内に換気扇と換気口の清掃を新たに追加しました。また新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に引き下げられたことにより、施設ガイドラインが廃止となり、すべての規制を解除しました。
・施設の老朽化が進んでおり、男子トイレ便座、建具、外灯、雨樋などの修繕を行いました。

交流室での活動の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	主な社会教育施設の利用者数	・コロナ禍で低下した利用者数は、少しずつですが回復傾向にあります。	28

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に引き下げられたことにより、5月からすべての規制を解除したが、貸館の利用者数は伸び悩んでおり、全体の利用者数は33,994人であり、前年度比約2%の微増となっています。

課題等

・参加人数の多い団体が活動される日などは、駐車場が混雑することがあります。
・施設の老朽化に伴う修繕が、多く発生しています。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・施設内のバリアフリー化を検討します。 ・老朽化している施設の修繕について、優先順位を付け修繕します。 ・西山公園体育館の駐車場と調整し、利用者に負担をかけないよう調整します。

分野	32	人権	通番 55
施策	321	人権・平和を尊ぶまちづくり	
5年後の目標		一人ひとりが確かな人権意識と平和を尊ぶ心を持ち、差別と人権侵害に対して、考え行動する力を有している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
人権啓発推進事業	一般	2	1	16	695,280	共生社会推進課
	一般	10	1	3	1,235,149	

事業の概要

全ての市民の人権が尊重され、個性と能力を発揮することができる社会を目指し、市内人権団体などと、さまざまな人権啓発事業を実施します。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	人権啓発事業への参加者数					単位	人
現　状 （計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
6,152 （令和元年度）	目標	5,700	5,950	6,200	6,200	6,200	
	実績	4,916	5,496	5,427			

・12月2日（土）に「人権・男女共同参画フォーラム」と「障がい者児の人権を考える市民のひろば」を合同で開催し、関係団体の発表、パネル展示、弁護士菊地幸夫さんの講演会などを行いました。
・全ての市民の人権が尊重され、個性と能力を発揮することができる社会を目指して、人権啓発作品（標語・ポスター・写真）を募集しました。
・市民団体である人権啓発推進協議会と連携し、様々な人権に関するテーマの講座を4回開催しました。
・6月「男女共同参画週間」や11月「パープル＆オレンジリボンプロジェクト」に合わせ、男女共同参画の推進と女性への暴力防止、児童虐待防止の啓発を行いました。

人権・男女共同参画フォーラム

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・12月2日の合同開催は、体験コーナーや講演会の実施と盛りだくさんの事業内容とすることで、来場者の関心を高めることができ、アンケートからも4割の方が初めて参加され、7割以上の方が「理解が深まった」と回答をいただきました。 ・人権啓発推進協議会をはじめ、各種人権団体と講演会や研修会を通じて、広く市民に人権について学べる機会を提供し、昨年度より1.2倍の参加者となりました。 ・人権啓発作品は、昨年度と比べ178人減の4,001人となりましたが、4,973点の応募がありました。 ・市民集会は、例年の講演会から参加型のイベントにすることで参加者が1.4倍となりました。 ・ニーズに即した多角的な事業を行うことで、男女共同参画意識の向上を図りました。

課題等

・未だ、同和問題や、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人等の様々な人権問題が存在しています。
・近年は、SNSなどのインターネット、LGBT等に関連した人権侵害など、新たな人権問題も発生しています。
・参加者を増やすためには、関心のあるテーマやイベント内容の工夫などを凝らす必要があります。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・複雑、多様化する人権問題について、一人ひとりが自分の問題として認識し、正しい知識を身に付けるため、講演会など学ぶ機会を提供します。 ・参加者を増やすため、テーマや開催方法などを工夫します。 ・市民団体や学校、関係機関と協力、連携しながら、人権啓発事業を実施します。

分野	32	人権	通番 56
施策	321	人権・平和を尊ぶまちづくり	
5年後の目標		一人ひとりが確かな人権意識と平和を尊ぶ心を持ち、差別と人権侵害に対して、考え行動する力を有している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
北開田会館地域交流事業	一般	3	1	5	2,122,676	北開田会館

事業の概要

地域の拠点施設である北開田会館を活用した地域活動等や貸館業務を通じて地域住民と周辺地域住民との交流を深め、同和問題（部落差別）をはじめあらゆる人権課題の解決に向けた各種事業を推進します。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	北開田会館における人権啓発事業の利用人数					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
4,532（令和元年度）	目標	4,600	6,000	6,100	6,150	6,200	
	実績	1,187	1,283	1,733			

・習字教室（36回）、料理教室（3回）、ウォーキング教室（6回）、ヨーガ教室（20回）、陶芸教室（6回）、手作り教室（2回）、京文化教室（4回）、手話教室（28回）、囲碁・将棋教室（94回）、軽体操教室（9回）、ゲートボール教室（1回）、クロリティー教室（2回）を実施しました。
・高齢者の健康維持を目的としたデイサービス事業を13回【サロン10回、寄せ植え2回、社会適応訓練（講習）1回】しました。
・人権教育指導員による各種人権研修を開催しました。

軽体操教室

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	C：目標の一部を達成できなかった	達成状況	・指標の目標値には、行政の研修及び会議等の利用人数を含んでいましたが、事業の趣旨を考慮し、実績には市民が参加した人権啓発事業の利用人数を測定しており、目標にはかなり差異が生じています。 ・一部のデイサービス事業の見直し、文化教養教室への転換を図ったことで、新たな参加者の掘り起こしができ、実績人数は昨年度と比べ増加しました。 ・人権教育指導員による各種人権研修については前年（26回）から3回減り23回でした。 ・同和問題（部落差別）をはじめ様々な人権課題の解決に向けた事業を推進しました。

課題等

・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用人数がコロナ禍以前まで回復していません。
・高齢者の利用が多い傾向にあるため、各種事業において若中年者層の利用者を促進する事業の展開が課題になっています。また利用者の固定化もみられるため、新規の利用者の掘り起こしも行う必要があります。
・以前より定期的に実施している事業においても生活時間及び生活様式の多様化を踏まえて、さらに見直しを進め改善していく必要があります。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・文化教養教室開催事業及び地区内啓発事業において、会館利用者のニーズを考慮した上で時間・開催回数を設定し、より多くの人が参加しやすいようにします。 ・人権課題の解決に向けた各種事業を引き続き推進していきます。

分野	32	人権	通番 57
施策	321	人権・平和を尊ぶまちづくり	
5年後の目標		一人ひとりが確かな人権意識と平和を尊ぶ心を持ち、差別と人権侵害に対して、考え行動する力を有している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
平和施策推進事業	一般	2	1	16	395,280	共生社会推進課

事業の概要

戦後80年近くが経過し、戦争体験が風化しつつある中で、戦争の悲惨さ、平和の大切さ、いのちの尊さを次世代に引き継いでいくため、行政として中立的な立場から「平和を考える市民フォーラム」等の開催や、インターネットを利用して戦争・平和に関する資料を掲載する「バーチャル平和祈念館」を活用し啓発活動の充実に取り組みます。とくに学校教育現場での活用を推進し、若年層への平和意識の積極的な醸成に取り組みます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	長岡京市バーチャル平和祈念館のアクセス数					単位	件
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
13,894（令和元年度）	目標	15,000	15,800	16,600	17,500	18,500	
	実績	18,950	33,987	36,237			

・コロナ前のフォーラム形式で平和祈念碑、戦没者追悼之碑への献花式の後、式典や講演会、展示などを実施しました。
・ウクライナ民族楽器バンドゥーラ奏者のカテリーナさんによる講演会のほか、市内空襲に関する実物展示や、広島・長崎原爆写真パネルの展示、すいとんの提供や昔遊びの体験などを実施し、市民の皆様に平和について考える機会を提供しました。
・フォーラムでは、高校生による司会やクイズラリーを実施し、若い世代にも参加してもらえるよう工夫をしました。

平和フォーラム

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・バーチャル平和祈念館の周知方法として、フォーラムで実施したクイズラリーの題材として宣伝したほか、平和授業で子供たちに啓発を行った結果、36,237と目標値を大きく上回り、さらに昨年度より約7%を超える実績数値となりました。 ・式典には120人、展示・体験等には130人、計250人ご参加いただき、広く市民に平和について考える機会を提供できました。 ・長九小6年生76人に平和の授業を実施し、神足空襲や市の取組事業などについて話し、通常の授業では学ぶことができないことを知ってもらう機会としました。

課題等

・平和啓発に関するイベントについて、若い世代にも関心をもってもらえるよう企画を工夫して実施することが必要です。
・バーチャル平和祈念館を、より多くの方（特に若年層）に利用いただき、何度も見ていただける工夫が必要です。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・これまでの取り組みを継承しながら、若年層に平和を考えていただける講演会を企画します。 ・子どもたちが興味をもって平和・戦争について学べる機会とするため、クイズラリーや体験コーナーなど工夫あるフォーラムを実施します。 ・小学生を対象に平和学習を実施し、バーチャル平和祈念館に学習成果を掲載します。

分野	32	人権	通番 58
施策	322	多様性を認め合う共生社会の実現	
5年後の目標		すべての人が、自分の望む人生を自分で選び取る機会を保障され、個性と能力を十分に発揮して生活している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
男女共同参画社会の実現事業	一般	2	1	17	5,119,468	男女共同参画センター

事業の概要

男女共同参画社会の形成には、あらゆる世代の市民が、固定的性別役割分担意識や男女の不平等感を払拭し、男女共同参画の視点と意識を持つことが必要です。そのため、多様な選択を可能とする学習機会の確保や、各種啓発事業の充実を図るとともに、女性活躍を推進する環境作りを進めます。また、誰もが様々な問題や悩みを安心して相談できる体制を整備するとともに、関係機関との連携のもと、ドメスティック・バイオレンスや児童虐待への対応を強化し、DV被害者等へのワンストップ支援体制の充実を図ります。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	審議会等の市民公募委員への女性委員参画比率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
45.3（令和元年度）	目標	46.0	46.0	48.0	48.0	50.0	
	実績	52.8	54.0	54.5			

・審議会等の市民公募委員については、長岡京市審議会等への女性委員の登用推進要綱に基づき、事前協議書の確認を行い女性の参画拡大につなげました。
・男女共同参画推進講座を15講座実施しました。人権・男女共同参画フォーラムでは、菊地幸夫弁護士による講演の他、男女共同参画川柳や、パープル＆オレンジリボンプロジェクトに寄せられたメッセージ、ジェンダーギャップ指数等の資料の展示や、男女共同参画フロア“いこ～る”の活動団体のパネル展示等の啓発を行いました。
・「面接相談」「電話相談」「DV電話相談」「女性のカウンセリングルーム」「女性の法律相談」「男性電話相談」を運営し、DV等様々な相談に応じるとともに、必要に応じて長岡京市DV対策ネットワークにおける関係機関と連携し支援を行いました。

人権・男女共同参画フォーラムの展示

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	「地域で」、「社会全般として」男女が平等になっていると考える市民の割合<男女ごと>	令和元年度実施の意識調査では、「地域で男女平等」と考える割合は、男性が46.4%・女性が35.3%でした。また、「社会全般で男女平等」と考える割合は、男性が24.1%・女性が11.3%でした。「社会全般で男女平等」と考える男性の割合は増加していますが、女性については、「地域で男女平等」「社会全般で男女平等」いずれの項目も減少となりました。ジェンダー平等意識の高まりにより、平等感も減少しているのではないかと推測されます。	25

達成度合	達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	・審議会等の市民公募委員への登用については54.5%と目標値を上回りました。 ・講座については、参加人数は691人となり、男女共同参画の意識づくりにつなげることができました。 ・「パープル＆オレンジリボンプロジェクト」への参加者は681名でした。高等学校2校へ「若年層のデートDV」について出前授業を行い、暴力被害の未然防止と誰もが安心して暮らせる社会づくりに向け意識啓発を行いました。 ・令和5年度の相談件数は、面接と電話による「一般相談・DV相談」が646件、内DV76件（11.8%）、「女性のカウンセリングルーム」が105件、内DV8件（7.6%）、「女性の法律相談」が24件、内DV2件（8.3%）、「男性電話相談」が12件、内DV0件（0%）の合計787件、内DV86件（10.9%）となりました。

課題等

・審議会等の市民公募委員への登用については、目標値を達成しています。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・引き続き、幅広い分野への女性の参画拡大に向け、担当課へ働きかけを行います。また、全体の女性参画比率を上げるために、選出母体である地域団体等に対し、自治会や地域コミュニティ協議会等を通じ、男女共同参画啓発を行います。

分野	32	人権	通番 59
施策	322	多様性を認め合う共生社会の実現	
5年後の目標		すべての人が、自分の望む人生を自分で選び取る機会を保障され、個性と能力を十分に発揮して生活している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
性の多様性理解促進事業	一般	2	1	16	276,611	共生社会推進課

事業の概要

LGBTなど、新たな人権課題である「性の多様性」への理解を進めるため、市民・学校・事業所等への啓発の充実を図るとともに、市としての発信に取り組みます。

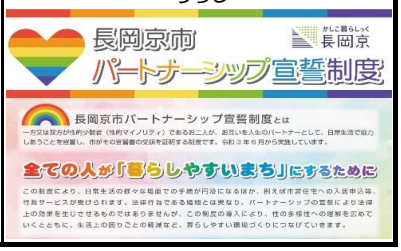
令和5年度の取組

D（取組）

指標	性の多様性理解促進に関する取り組み					単位	―
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
―	目標	パートナーシップ制度の実施	LGBTリーディングカンパニー制度の検討	LGBTリーディングカンパニー制度の実施	制度の運用	制度の運用	
	実績	パートナーシップ制度の実施	LGBTリーディングカンパニー制度の検討	にじいろ企業登録制度の制定			

・令和6年4月から京都府や大阪府、兵庫県内の43自治体と連携し、転出入の際のパートナーシップ宣誓制度の事務手続きが簡略化できるよう制度の拡充を図りました。
・LGBTリーディングカンパニー制度の実施に向け、企業等へのアンケート実施や関係団体からの意見聴取、他自治体の事例を参考に、本市にあった制度設計を行い、「にじいろ企業登録制度」として制定しました。
・性的少数者やその周囲の人たちが気軽に集まり交流できるコミュニティスペースの開催や市民を対象とした講座を開催しました。

ちらし



施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	LGBT（性的少数者）という言葉の認知度	近年、性の多様性への理解は広がりつつあり、LGBT（性的少数者）という言葉の認知度も8割以上と高くなっています。	27

達成度合	達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	・パートナーシップ宣誓制度の拡充に伴い、ポスターやちらし、HPを作成し、周知を図りました。 ・「にじいろ企業登録制度」の要綱を3月に制定し、以前のアンケート結果で前向きな企業へ「にじいろ企業」への登録の意向を伺い、募集を始めました。 ・啓発効果を高めるためにプライド月間である6月（令和6年度）に第1回認証式を行いました。 ・啓発活動に使用するため、性の多様性のロゴマークを公募し、48点から市公式LINEによる投票により決定しました。 ・性の多様性に関する講座に21名の方に参加いただき、9割以上の方が性の多様性への理解が「とても深まった」「深まった」と回答いただき、性の多様性への理解促進を図りました。

課題等

・にじいろ企業登録制度について、企業や事業所へ周知をし、登録を増やす必要があります。
・パートナーシップ宣誓制度を契機とした取組（行政サービス等）の推進を図ることが必要です。
・当事者団体とのつながりが無く、当事者のニーズを把握する機会が少ないのが現状です。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・にじいろ企業を増やすため、企業や事業所へ個別に説明し、制度への理解を広めます。 ・にじいろ企業へ研修会の案内など情報提供をし、性の多様性への理解を深めていきます。 ・コミュニティスペース「まぁぶるスペース」を開催し、当事者やその支援者の交流の場や機会の提供、ニーズの把握を行います。 ・継続した啓発活動により正しい知識と理解を得るため、講演会などを開催します。

分野	32	人権	通番 60
施策	322	多様性を認め合う共生社会の実現	
5年後の目標		すべての人が、自分の望む人生を自分で選び取る機会を保障され、個性と能力を十分に発揮して生活している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
障がい理解・合理的配慮提供促進事業	一般	3	1	9	793,402	障がい福祉課

事業の概要

障がい者差別の解消や理解促進を図るため、障がい特性の理解と合理的配慮の事例を学ぶ機会の創出や、主体的に行動できるサポーターづくりに取り組みます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	障がい特性理解のための研修を受け、「あいサポーター」となった市民・事業者の数					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
719（令和元年度）	目標	880	1,030	1,230	1,430	1,630	
	実績	1,236	1,346	1,509			

・障がいのある方に対しての手助けや配慮等を実践するあいサポーターの養成を通じて、誰もが暮らしやすい社会を目指すあいサポート運動を推進するため、「あいサポーター養成研修」を行いました。オンライン研修について、市ホームページやチラシで周知しました。
・あいサポーター研修を受講し、あいサポート運動の普及等に積極的に取り組む企業、団体等に対して「あいサポート企業等」の認定を行いました。
・ホームページや広報紙に合理的配慮の取組みやあいサポート運動の概要、ほっとはあと製品（障がい福祉事業所の製品）の紹介等を掲載し、啓発を行いました。

あいサポーター養成研修の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	障がい者（児）に対するアンケートで、①「障がい者にとって住みやすい家が準備されていること」が選択された割合 ②「必要な福祉サービスが適切に利用できること」が選択された割合	約4分の1の方が生活する住まいに何らかの支援を求めており、半数以上の方が必要な福祉サービスの適切な利用を望んでいます。障がいのある方が必要な福祉サービスや支援を適切に利用でき、地域生活を継続できる環境整備が今後取り組むべき課題です。	16

達成度合	達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	・市民、企業、団体、市職員を対象に計11回のあいサポーター養成研修を実施し、163人のあいサポーターを養成しました。市職員に対する研修は今年度から集合研修に戻して実施しました。 ・9団体を「あいサポート企業等」に認定しました。

課題等

・改正障害者差別解消法が令和6年4月1日から施行されたことで、民間事業者にも合理的配慮が義務化されました。民間事業者に法改正の内容とともに、障がいに対する理解を深めてもらうことが重要です。
・誰もが暮らしやすい長岡京市を実現するために、障がいのある方に対し配慮できるあいサポーターのさらなる養成が必要です。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・引き続き、市民・事業者・団体等へ積極的に周知啓発を行い、障がい理解の向上に努めます。 ・あいサポーター養成の拡大に向けて、あいサポーター研修の情報発信に取り組み、研修参加者を増やすとともに、参加者のニーズに合わせた研修内容を企画します。 ・民間事業者の障がい理解啓発を促進し、あいサポート企業等の認定を増やします。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 61
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につなげている。	

概要

P（概要）	実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
		会計	款	項	目		
	各種団体・サークル等活動支援事業	一般	10	4	2	257,400	中央公民館

事業の概要

公民館で活動しているサークルの活動紹介等を通じて、公民館に来館し、活動する市民を増やします。館内の発表会・パネル展示・広報紙に加え、中・高・大学生、壮年等の世代別の広報も展開し、新たな市民利用を呼び込みます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標①	公民館（社会教育ホール）登録団体件数					単位	団体
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
166（令和2年8月末現在）	目標	170	175	180	185	190	
	実績	182	190	155			

指標②	公民館（社会教育ホール）登録団体による利用件数【児童室・焼成炉室除く】					単位	件
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
2,869（令和元年度）	目標	2,900	2,930	2,960	2,990	3,020	
	実績	1,921	2,678	2,802			

・公民館サークル連絡協議会（略称：公サ連）の会員が中心となり、市民ギャラリーの作品展示や館内での募集看板の掲示及びオープンハウスを利用したサークル加入のための啓発活動を実施しました。
・新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行されたことで、公サ連まつりにおいて利用制限なく全館を使用して実施することができ、美術工芸展や芸能発表等活動の成果を発表しました。

オープンハウス（公民館茶道クラブ）

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行となり、サークル活動の活発さが少しずつ戻ってきています。 ・団体登録更新時期（3年毎）があり、コロナ禍で活動を休止したり、会員の高齢化に伴い多数の団体が退会したため、登録件数は減少しました。
課題等	団体登録件数の減少が見込まれるため、更なる確保に向けた取り組みが必要です。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・会員と意見交換等を通して、見学や体験等の機会となるオープンハウスを引き続き実施するほか、普段の活動時でも気軽に見学できるよう、活動日に「見学歓迎」等の掲示を行い、会員確保につなげていきます。その他、館内でもデジタルサイネージを活用し、サークルの紹介を行っていきます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 62
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につなげている。	

概要

P（概要）	実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
		会計	款	項	目		
	公民館市民講座開設事業	一般	10	4	2	1,213,305	中央公民館

事業の概要

市民生活が生涯学習を通じて潤いあるものとなるように、様々な学習ニーズに対応した講座を実施します。
また、実際生活に関する学習課題を市民自らが講師となり共に解決していく「市民企画講座」を実施します。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	公民館主催講座の参加者数（児童室一般開放を除く）					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
6,013（令和元年度）	目標	6,130	6,190	6,250	6,310	6,370	
	実績	3,877	5,099	5,119			

・各世代のニーズに応じた講座として、少年教育（少年少女発明クラブ12回）、男女共同参画（男女共同参画講座1回）、高齢者教育（熟年生き生き講座12回）、家庭教育（ぴよぴよクラブ10回、子育てふれあいルーム74回、家庭教育学級1回、多文化共生子育て講座1回）、福祉教育（聴覚言語障がい者学級1回）を実施しました。また、公民館での子育て事業や各種講座への託児に従事していただける子育てボランティアを養成する講座5回、子育てボランティア同士の情報共有の場としてサポーターふれあいネット12回を実施しました。
・市民企画講座は、総合計画から抽出した6つのテーマに沿って市民自らが講師となり、46企画、130講座を実施しました。個別のチラシはもとより、3ケ月単位で取りまとめたチラシも作成し、実施時期や内容が一目でわかるよう工夫しました。

市民企画講座

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえて熟年生き生き講座等で参加者の人数制限をなくしたこともあり、4年度と比べ実績値は微増となりました。 ・市民企画講座では、講座終了後にアンケート調査を実施し、集約結果を講師と共有することで、参加者ニーズの把握と次回への取り組み課題への反映につなげており、参加者の満足度は80%～100%となっています。

課題等	・平成30年度の本格実施から5年が経過し、徐々に市民企画講座が認知されてきた一方、講座数が増えたことに伴い、サークル活動のために使える部屋が少なくなってしまうため、サークル活動を抑制せず、市民企画講座を実施することが課題です。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・1企画あたりの講座数に上限を設けるなど、サークル活動の充実とのバランスを調整します。 ・アンケート結果をもとに市民ニーズの把握に努め、企画者とともにより良い講座となるよう引き続き実施していきます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 63
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につなげている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
中央生涯学習センター事業	一般	10	1	5	73,527,600	生涯学習課

事業の概要

人生100年時代を迎え、生涯学習社会への重要性が高まっています。市民の主体的な学びの場として、また、学習機会や情報を提供する場として、中央生涯学習センターを管理運営します。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	中央生涯学習センター貸室利用率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
48.7（令和元年度）	目標	30.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	実績	30.1	40.9	43.6			

・中央生涯学習センターの管理運営は、指定管理者である大阪ガスビジネスクリエイト株式会社に委任しています。
・指定管理者の自主事業として、バンビオ展示ウィーク、バンビオファミリー人形劇、夏休み親子企画、落語会、各種講座などを行いました。また、月例でのメインホール利用者に対し、活動の活性化を支援する取り組みを新たに実施しました。
・生涯学習機関紙「be→!」や「バンビオここから通信」を全戸配布し、イベントの告知や施設利用サークルの紹介などの情報発信を行いました。

自主事業（盆踊りフェスタ）の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	主な社会教育施設の利用者数	コロナ禍で低下した利用者数は、少しずつであるが回復傾向にある。	28

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・コロナ禍で低下した貸室利用率は少しずつ回復傾向にあります。利用人数も、152,012人となり、前年度129,096人から増加しました。 ・メインホールのプロジェクターを更新したほか、各部屋のパイプ椅子をスタック椅子に切り替えるなど、より快適な利用環境を整えることができました。 ・指定管理者の自主事業として講座やイベントを積極的に行い、事業への参加を通じ、多くの方に新たな学びの機会を得ていただくことができました。

課題等

・コロナ禍で生涯学習活動を休止していた人が、学びを再開していただけるよう、施設利用のきっかけとなる取り組みを行う必要があります。
・平成17年の開館から19年が経ち、利用者に快適に施設を利用いただくためにも、施設や備品について、必要な範囲で修繕や更新を行っていく必要があります。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・引き続き、魅力的な講座やイベントを実施し、生涯学習、施設利用のきっかけづくりとなる取り組みを行います。 ・計画的に、施設や備品の修繕、更新を行っていきます。 ・令和7年度で開館20周年を迎えるため、改めて中央生涯学習センターを知ってもらう機会となる記念イベントの実施を検討します。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 64
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につなげている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
図書館サービスの推進・充実事業	一般	10	4	3	11,911,119	図書館

事業の概要

読書啓発活動を推進するとともに、今まで図書館を利用していない人にも魅力を感じてもらえるアプローチの手法を検討・実施します。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	1冊あたりの年間稼働率（回転数）					単位	回
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
1.58（令和元年度）	目標	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70	
	実績	1.72	1.70	1.70			

・雑誌スポンサー企業の知識・経験を活かしたこれまでにない魅力的な取り組みとして、雑誌スポンサー企業と図書館との協働によるイベントを今年度初めて実施しました。市内のフォトスタジオ主宰者を講師に招き、こども対象のカメラ教室「こどもカメラ」を2回実施しました。
・図書館来館者を増やすため、図書館の利用率が比較的少ない世代である10代を対象とした読書啓発活動を3回実施しました。内容は、好きな本やこれからの図書館について話し合う会「図書館ティーンズナビゲーター」、言葉や本を使って楽しむボードゲーム大会「図書館でA.R.E.しよッ！」、多様な業種から招いた講師（今回は作家）を囲んで司書や学生たちとともに行う座談会「お仕事図鑑」です。

図書館ティーンズナビゲーター

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	—	—	—

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・図書館利用が少ない中学生から働く世代向けの講座を積極的に実施し、書評を通じたコミュニケーションゲーム「ビブリオバトル」「ビブリオトーク」では、延べ31名の参加があり、前年より15名の増となりました。また、図書館を主な活動場所とする団体「金のうろこ」による公開講座や、科学の本を実体験と共に届ける「よもう！たのしもう！かがくの本！」による講座では、年齢を問わず楽しめる内容とすることで多世代間での本を通じたコミュニケーションが生まれました。これらの行事により幅広い年代に向けて本との出会いの機会を充実させることができました。

課題等

・10代に向けた読書啓発活動が改めて始動しました。今後継続して行うことで、10代の安定したイベント参加・図書館利用につなげることが課題です。
・新鮮な情報が得られる書架づくりのため、蔵書を適切に更新することが課題です。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・今まで関わってきた読書啓発活動団体と引き継き良好な関係を築きながら、大学（市内外含む）や高等学校、小中学校などへも積極的に働きかけ、新たな協力・連携体制づくりを行い、小学校高学年から大学生までの利用が少ない層を巻き込んだ読書啓発活動を企画していきます。 ・引き続き、情報の新鮮さ・信用性を精査して図書を収集する一方で、古い本を適切に廃棄することで新鮮な情報が得られる書架・蔵書づくりを進めます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 65
施策	332	文化・芸術の振興	
5年後の目標		ふるさとの文化・歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
長岡京芸術劇場推進事業	一般	10	4	8	77,710,422	文化・スポーツ振興課

事業の概要

「長岡京芸術劇場」公演をはじめとした文化・芸術事業を推進します。また、子どもたちが文化・芸術に興味関心を持ち、活躍するまちづくりに取り組みます。
また、長岡京記念文化会館を拠点とした質の高い舞台芸術の提供と充実を図るとともに、記念文化会館の安定的な運営を目指し京都府に対して会館の活用や維持・改修を求めていきます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標		長岡京芸術劇場の事業数				単位	事業
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
21（令和元年度）	目標	15	24	25	26	27	
	実績	12	18	22			

・5月4日に「長岡京芸術劇場　長岡京駅前広場コンサート」を4年ぶりに開催しました。市内の中学・高等学校の吹奏楽部や一般の団体など10団体が参加し、多くの市民にご来場いただきました。
・長岡京芸術劇場事業として、長岡京芸術劇場実行委員会主催事業（6事業）、文化奨励事業補助金助成事業（7事業）、芸術劇場ロゴマーク使用申請イベント（8事業）を企画し、21事業を実施しました。
・長岡京芸術劇場実行委員会主催事業出演団体3団体による、市内小学校や中学校への出前演奏会やブラスクリニックなどの交流に対する支援を行いました。
・長岡京記念文化事業団に対し支援を行い、記念文化会館で音楽、映画、公演等の11事業を実施しました。また、記念文化会館の老朽化（設備の故障、建物の雨漏り等）に伴い、京都府にホールの修繕計画の策定及び財政的支援を要望しました。令和5年度に中央公民館との共有設備である消防設備と舞台の袖幕の改修工事の内示を受け、令和6年度に実施予定です。

オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラによる演奏指導

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類感染症」になったことにより、4年ぶりに「長岡京芸術劇場長岡京駅前広場コンサート」を開催し、長岡京芸術事業として22事業を実施することができました。目標事業数の達成には至りませんでしたが、集客数はコロナ禍前に近い数字となりました。 ・音楽を「聴く」「観る」「楽しむ」ことをコンセプトとして、市民文化芸術の育成や発表の機会の重要性を再認識しながら文化の継続と発展をテーマとした公演を実施しました。

課題等	・「長岡京芸術劇場事業」の来場者増加のため、長岡京記念文化事業団と連携を取り、文化・芸術公演の更なるPRが必要です。 ・各文化芸術団体と調整・協議を重ね、連携協力しながら、事業の活発な実施のため、更なる工夫・支援が必要です。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・長岡京芸術劇場実行委員会が主催する「長岡京芸術劇場」公演の更なるPRを図り、市内及び市外からも公演の入場者を募ります。 ・文化芸術団体と調整・協議を行い、連携協力しながら、事業を活発に実施できるよう検討・工夫及び支援を行っていきます。 ・ポスターやチラシの配架に加えFMおとくになどを活用し、更なるPRを実施していきます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 66
施策	332	文化・芸術の振興	
5年後の目標		ふるさとの文化・歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
文化活動推進・支援事業	一般	10	4	8	3,122,000	文化・スポーツ振興課

事業の概要

誰もが文化・芸術活動にふれ、参加してもらう機会を確保するため、文化団体の文化・芸術活動を推進し、活動支援を行います。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	文化活動団体事業における参加者数（出品者、出演者、鑑賞者）					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
7,092（令和元年度）	目標	6,000	10,800	10,900	11,000	11,100	
	実績	3,876	7,854	8,058			

・長岡京市文化協会が主催する事業に補助金を交付し、市民の文化芸術の発表の場であり、鑑賞の場である「名月の宴」「市民文化まつり」「長岡京展」の実施を支援しました。また「文化講座」として「日本の横笛の世界一能管」や「各種市民文化教室」の開催を支援し、初心者を対象にした文化芸術活動へのきっかけづくりを行いました。
・「長岡京市文化奨励事業補助金」制度（募集期間：4月と10月）を運用し、文化芸術に触れる機会を提供する実施団体の自主的な文化・芸術活動に対し支援を行いました。
・新規事業として「文化・芸術サークル見学会」を実施しました。

第61回市民文化まつり

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	文化まつり等文化事業における参加者数（出品者・出演者・鑑賞者）	新型コロナウイルスが「5類感染症」に移行になり、徐々に事業が平常に開催されたことにより回復傾向となっています。	30

達成度合	達成状況
C：目標の一部を達成できなかった	・文化協会3大事業（「名月の宴」「市民文化まつり」「長岡京展」）を実施しました。 ・来場者数は目標値を達成できませんでしたが、徐々に事業が平常に開催されたことにより回復傾向です。 ・「名月の宴」では、8月10日に実施した「夏休み企画牛乳パックでランタン作り」に参加の小学生54名が作成したランタンを展示したことにより、若い世代（子どもや子育て世代）に来場いただくことができました。 ・長岡京市文化奨励事業補助金の交付件数は、募集期間を4月と10月の2回に分けたことにより、前年度より1件増の7件となりました。 ・文化協会新規会員獲得につなげるため、各サークルと協力し、12月10日に「文化・芸術サークル見学会」を初開催し、参加者へ各サークルの活動内容を広く知らしめることができた。

課題等

・文化協会会員数は年々減少傾向です。会員、各サークルと協力連携し、新規会員獲得への更なる努力が必要です。
・文化芸術活動に携わる人が、高齢化・固定化しており、担い手の不足が深刻な状況です。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・文化芸術関連団体と連携協力を行うとともに、実施団体の支援や事業PR等に取り組んでいきます。 ・文化協会の人材を活用するなどして、文化芸術活動への参加のきっかけとなるような市民文化教室や文化講座の開催などを支援していきます。 ・文化協会新規会員獲得への更なる努力が必要です。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 67
施策	332	文化・芸術の振興	
5年後の目標		ふるさとの文化・歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
総合的な文化財保存活用の推進	一般	10	4	5	10,498,640	文化財保存活用課

事業の概要

文化財保存活用地域計画の策定と新庁舎での歴史資料の展示公開を進めます。
計画の策定と合わせて、恵解山古墳をはじめとする「乙訓古墳群」の保存・整備、未調査の歴史資料の収集・調査・保存に取り組みます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	文化財保存活用地域計画の策定、新庁舎での歴史資料の展示公開					単位	―
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
―	目標	文化財保存活用地域計画の素案作成	文化財保存活用地域計画の作成	新庁舎歴史資料展示内容検討	新庁舎歴史資料展示設計	新庁舎歴史資料展示施工	
	実績	長岡京市文化財保存活用地域計画の素案作成	長岡京市文化財保存活用地域計画の作成	新庁舎歴史資料展示室基本計画（案）の作成			

・新庁舎建設工事との与件整理を行い、「新庁舎歴史資料展示室基本計画（案）」を作成し、令和6年3月にパブリックコメントを実施しました。
・乙訓古墳群の保存・活用のため、文化庁をはじめとした関係機関との協議を実施しました。
・文化財啓発事業として、歴史講演会の開催、歴史文化ドリル「タケノコ食えスト」の制作の支援を行いました。（主催：文化財保存活用推進会議）

基本計画（案）掲載のイメージ図

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・令和8年度の新庁舎グランドオープンに合わせて歴史資料展示室を整備するにあたり、文化財保護審議会等の有識者の意見を聴取しながら基本計画（案）を作成しました。パブリックコメントの結果、4人14件の意見があり、一部を基本計画（案）に反映しました。 ・恵解山古墳の整備・活用、乙訓古墳群の公有化に向けて、文化庁・府と協議を行い、財源確保に努めました。 ・文化財現地（長岡天満宮）での歴史講演会では、60名定員に対して113名の応募がありました。歴史文化ドリルの制作では、ワークショップ、活用体験会を通して、市内小学生延べ41名の参加がありました。また、制作した歴史文化ドリルを活用し、文化財の情報発信の担い手を育成するための学習会を実施しました。
課題等	・歴史資料展示室を運営するための体制整備の確保が必要です。 ・地域計画の重点事業に掲げている財源確保の取り組みをはじめ、文化財の保存活用をより推進するための検討が必要です。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・基本計画（案）に定めた基本方針など、歴史資料展示室に求められる役割を果たす施設となるよう、体制整備の確保・展示内容の具体化等を進めます。 ・次年度は、乙訓古墳群恵解山古墳が公園開園10周年の節目となるため、その機会に合わせ、保存・活用・整備等の事業をより進めます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 68
施策	333	スポーツの振興	
5年後の目標		心身の健康を保つため、運動・スポーツに親しみ、これを通じた交流を楽しんでいる。	

概要

	実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
		会計	款	項	目		
P（概要）	総合型地域スポーツクラブ推進事業	一般	10	5	1	25,414,918	文化・スポーツ振興課

事業の概要

全小学校区で総合型地域スポーツクラブの設立を図ります。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	総合型地域スポーツクラブの設立数					単位	小学校区
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
8（令和元年度）	目標	8	8	9	9	10	
	実績	8	8	8			

・8つの小学校区で設立されている総合型地域スポーツクラブへの支援を行い、特にスポーツフェスティバルについては、8校区全ての総合型地域スポーツクラブで実施することができました。
・長岡第四小学校の改築工事に伴い、同校開放センターの新校舎内への移設作業を実施しました。
・総合型地域スポーツクラブ未設立の校区においては、地域スポーツ振興事業の委託などによる支援を行うとともに、クラブ創設に向けた働きかけをおこないました。

市民スポーツフェスティバル（三小）

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	市民スポーツ実施率	年代別でみると、20歳代～40歳代の運動実施率が低く、若年層や働き盛り世代に対する運動・スポーツの機会や場の提供が求められます。	29

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・現在8つの校区で設立された総合型地域スポーツクラブを中心に、校区住民のスポーツ実施の機会拡大につながっています。 ・新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行になったことで、平常な方法に戻してイベントや教室開催に取組むことができ、運動・スポーツの機会や場を提供することができました。

課題等

・総合型地域スポーツクラブの運営やイベント開催時の担い手の人数不足や高齢化が課題です。
・未設立校区では総合型設立に向けた、組織の設立や実施意欲を高めるための活動が必要です。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・地域スポーツが地域の絆や地域コミュニティの醸成・復活につながるよう、関係団体と調整・協議を行い、事業が実施できるよう検討・工夫を行っていきます。 ・未設立校区では総合型設立に向けて、引き続き、長岡京市スポーツ協会と連携協力しながら「核となる人や団体」に対し、総合型地域スポーツクラブの意義について説明や、その必要性について理解を求めていきます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 69
施策	333	スポーツの振興	
5年後の目標		心身の健康を保つため、運動・スポーツに親しみ、これを通じた交流を楽しんでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
スポーツ交流推進事業	一般	10	5	1	16,481,045	文化・スポーツ振興課

事業の概要

若葉カップ全国小学生バドミントン大会を通じ、競技力向上の機会と広域的な交流を深める機会を創出します。また、市民が身近な校区で運動・スポーツに親しめるよう、小中学校の体育施設を開放し、運動・スポーツのできる環境の確保に努めるとともに、スポーツ少年団の育成やスポーツ団体連合会の活動の支援を図ります。さらに、パラスポーツなど誰もが楽しめるスポーツの推進に取り組み、市民のスポーツ実施率を高めます。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	学校開放・夜間照明利用件数					単位	件
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
9,212（令和元年度）	目標	9,800	9,400	9,400	9,400	9,800	
	実績	5,038	9,563	10,099			

・「第39回若葉カップ全国小学生バドミントン大会」を開催しました。
・「市民大運動会」及び「市民スポーツフェスティバル」を開催しました。
・小中学校施設を開放し、学校開放事業及び夜間照明施設事業を行いました。
・地域スポーツの振興を図るため、スポーツに親しむ行事等の実施を各校区に委託しました。

市民大運動会（長法寺小）

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	市民スポーツ実施率	年代別でみると、20歳代～40歳代の運動実施率が低く、若年層や働き盛り世代に対する運動・スポーツの機会や場の提供が求められます。	29

達成度合	達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	・「第39回若葉カップ全国小学生バドミントン大会」では、試合のライブ配信等も行い、本大会の魅力を世界に向け発信する取組みを実施しました。 ・工事に伴い利用できない校区・期間がありましたが、学校開放・夜間照明利用件数は目標を上回る結果となりました。 ・天候不順のため、開始時刻を遅らせたり、実施時間を短くしたり、1週間後に開催を延期したりと、各校区で対応が分かれましたが、4年ぶりに市内全10小学校区において「市民大運動会」を実施することができました。 ・8校区全ての総合型地域スポーツクラブで「市民スポーツフェスティバル」を実施することができました。

課題等

・「若葉カップ全国小学生バドミントン大会」は、長年、全国から参加される大会として、本市で開催されていますが、審判体制や駐車場不足などの課題もあるため、今後も安全で円滑、持続可能な大会運営ができるよう、実行委員会や関係機関と密な連携や入念な準備が必要です。
・「市民大運動会」や「市民スポーツフェスティバル」の運営の担い手の人数不足や高齢化といった課題があります。

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・スポーツイベント開催や施設開放を通じ、市民がスポーツに親しむ機会を提供します。地域の絆が深まり、地域コミュニティの醸成につながるようスポーツの推進に取り組みます。 ・各種スポーツイベントの運営について負担軽減や担い手の確保などの課題について、各校区と協議し、必要な支援を行います。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 70
施策	333	スポーツの振興	
5年後の目標		心身の健康を保つため、運動・スポーツに親しみ、これを通じた交流を楽しんでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
スポーツ施設環境の整備	一般	8	4	6	129,872,427	文化・スポーツ振興課
	一般	10	5	2	55,593,318	

事業の概要

スポーツ活動の拠点である西山公園体育館やスポーツセンターの適正な維持管理に努めながら、多くの市民がライフステージに応じたスポーツを楽しむことができるよう、市民スポーツ活動の充実を図ります。特に老朽化が進むスポーツセンターについては、体育館機能の移転、現行敷地の屋外機能の拡充等を含む再整備について検討し、具体化を図ります。

令和5年度の取組

D（取組）

指標	体育館等施設利用者数（西山公園体育館・スポーツセンター）					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
268,232（令和元年度）	目標	240,000	272,500	275,000	277,500	280,000	
	実績	153,657	196,762	206,842			

・西山公園体育館においては、照明設備の工事を行い、従来より寿命が長く消費電力が少ないLED照明を整備しました。
・スポーツセンターにおいては、体育館の耐震化、屋根防水、トイレ改修工事を行いました。

西山公園体育館

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和5年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	C：目標の一部を達成できなかった	達成状況	・西山公園体育館は、照明のLED化工事を行いました。 ・スポーツセンターは、体育館の耐震化、屋根防水、トイレの改修を実施しました。 ・工事による使用停止の影響もあり、利用者数が目標値を下回っています。 （停止期間：西山公園体育館　約3ヶ月、スポーツセンター　約2ヶ月） ・西山公園体育館、スポーツセンターの管理運営等について、指定管理者のスポーツ協会等と協議検討を行いました。
課題等	・西山公園体育館及びスポーツセンターについては、老朽化する施設設備において、安全を最優先に、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行う必要があります。 ・スポーツセンターについては、再整備を進めていきます。		

次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・西山公園体育館は、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行っていきます。 ・スポーツセンターは、当面必要となる施設の安全性の確保、機能維持に向けた対応を行いながら、関連部局とも連携協力して、体育館機能の移転等施設の再整備を行っていきます。